

特定非営利活動法人兵庫県防災福祉ネットワーク定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人兵庫県防災福祉ネットワークという。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を兵庫県神戸市に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、住民、各種団体、事業所等に対して、防災・福祉・教育・環境活動の運営支援及び活動支援に関する事業を行い、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次に掲げる特定非営利活動を行う。

- (1) 災害救援活動
- (2) 地域安全活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (5) 子どもの健全育成を図る活動
- (6) 環境の保全を図る活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) 自主防災組織等の防災訓練における住民、各種団体、事業所等の連携及び活動支援事業
- (2) 自主防災組織等の防災マップ等の作成及見直等の地域安全活動における住民、各種団体、事業所等の連携及び活動支援事業
- (3) 地域団体の高齢者の給食会等のまちづくり推進活動における住民、各種団体、事業所等の連携及び活動支援事業
- (4) 災害弱者の要援護者支援訓練等の福祉増進活動における住民、各種団体、事業所等連携及び活動支援事業
- (5) 防災ジュニアチーム等の子どもの健全育成活動における住民、各種団体、事業所等連携及び活動支援事業
- (6) 兵庫運河の環境保全のための真珠貝プロジェクトにおける住民、各種団体、事業所等連携及び活動支援事業
- (7) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

第3章 会員

(会員の種類)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、賛助の意思を持つ個人又は団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、その旨を文書で代表理事に申し込むものとし、代表理事は正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 代表理事は、前項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、理事会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会の申し出があったとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、退会しようとするときは、その旨を文書で代表理事に提出して任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次のいずれかに該当するときは、理事会において理事総数2分の1以上の同意により会員を除名することができる。この場合、その会員に対し、議決前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 法令、定款に違反したとき。
- (2) この法人の名誉をき損し、設立の趣旨に反し、又は秩序を乱す行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既に納入した入会金、会費及びその他の抛出金品は、これを返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上10人以下
- (2) 監事 1人以上2人以下
- 2 理事のうち、1人を代表理事、2人以下を副代表理事とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 代表理事及び副代表理事は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて

含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることはできない。

(職務)

第15条 代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 代表理事以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

3 副代表理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故あるとき又は代表理事が欠けたときは、代表理事があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

5 監事は、次に掲げる業務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況若しくはこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、又は理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員には報酬を与えることができる。ただし、役員のうち報酬を受ける者の数が役員の総数の3分の1以下でなければならない。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に事務局長その他職員を置くことができる。

2 事務局長その他の職員は、代表理事が任免する。

第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業報告及び決算
- (5) 役員の選任又は解任及び報酬
- (6) その他、理事会が総会に付すべき事項として議決した事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数2分の1以上から、会議の目的を記載した書面又は電磁的方法により招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第4号に基づき監事から招集があったとき。

(招集)

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、代表理事が招集する。

2 代表理事は前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面及び電磁的方法により、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、正会員たる代表理事がこれに当たる。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によりあらかじめ通知された事項とする。

ただし、議事が緊急を要し、かつ出席した正会員の2分の1以上の同意があれば、その事項について議決が行うことができる。

2 総会の議事は、この定款に別に定めるもののほか、総会に出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第 29 条 各正会員の表決権は平等なるものとする。

2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。この場合において、第 27 条、前条第 2 項、次条第 1 項第 3 号及び第 49 条の規定の適用については、出席したものとみなす。

3 議決すべき事項について特別な利害関係を有する正会員は、その事項について表決権を行使することができない。

(議事録)

第 30 条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 正会員の現在数
- (3) 総会に出席した正会員の数（書面又は電磁的方法表決者及び表決委任者がある場合にあってはその数を付記すること。）
- (4) 議長の選任に関する事項
- (5) 審議事項
- (6) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (7) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名・押印又は記名・押印しなければならない。

第 6 章 理事会

(構成)

第 31 条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第 32 条 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。

- (1) 事業計画及び予算並びにその変更
- (2) 理事の職務
- (3) 借入金、その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (6) 入会金及び会費の額
- (7) 会員の除名
- (8) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(開催)

第 33 条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の 2 分の 1 以上から会議の目的を示して招集の請求があったとき。
- (3) 第 15 条第 5 項第 5 号に基づき監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第 34 条 理事会は、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面及び電磁的方法により、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、代表理事がこれに当たる。

(定足数)

第36条 理事会は、理事総数の過半数の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第37条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によりあらかじめ通知された事項とする。

ただし、議事が緊急を要し、かつ出席した正会員の2分の1以上の同意があれば、その事項について議決が行うことができる。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第38条 各理事の表決権は平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の理事を代理人として表決を委任することができる。この場合において第36条及び次条第1項第3号の規定の適用については、出席したものとみなす。
- 3 議決すべき事項について特別な利害関係を有する理事は、その事項について表決権を行使することができない。

(議事録)

第39条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事の現在数
 - (3) 理事会に出席した理事の数及び氏名（書面又は電磁的方法表決者及び表決委任者がある場合にあってはその数を付記すること。）
 - (4) 審議事項
 - (5) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及び出席した理事のうちからその会議において選任された議事録署名人2人が署名・押印又は記名・押印しなければならない。

(顧問)

第40条 この法人に顧問若干名を置くことができる。

- 2 顧問は学識経験者又は本会に功労のあったものから、代表理事が委嘱する。
- 3 顧問は、代表理事の諮問に応じ、理事会に助言を与えることができる。
- 4 前2項に定めるもののほか、顧問に関して必要な事項は、代表理事が別に定める。

第7章 資産及び会計等

(資産の構成)

第 41 条 この法人の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品
- (4) 事業に伴う収益
- (5) 資産から生じる収益
- (6) その他の収益

(資産の管理)

第 42 条 この法人の資産は、代表理事が管理し、その方法は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

(会計の原則)

第 43 条 この法人の会計は、法第 27 条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(事業年度)

第 44 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(事業計画及び予算)

第 45 条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、代表理事の責任のもと作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第 46 条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない事由により予算が成立しないときは、予算成立までは、前事業年度の予算に準じ執行することができる。

2 前項の規定による執行は、新たに成立した予算に基づくものとみなす。

(予算の追加及び更正)

第 47 条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第 48 条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事の責任のもと作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

第 8 章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第 49 条 この定款を変更しようとするときは、総会において出席した正会員の過半数の議決を経、かつ、法第 25 条第 3 項に定める以下の事項に係る定款の変更の場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称

- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁の変更を伴うものに限る）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に係るものを除く）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合には、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき者に係るものに限る）
- (10) 定款の変更に関する事項

（解散）

第 50 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
 - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産手続開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第 1 号の事由により解散する場合は、正会員総数 4 分の 3 以上の承諾を得なければならない。
- 3 第 1 項第 2 号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第 51 条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したとき残存する財産は、法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、解散総会において選定した法人に譲渡するものとする。

（合併）

第 52 条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 2 分の 1 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第 9 章 公 告

（公告の方法）

第 53 条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、貸借対照表の公告については、内閣府 NPO 法人ポータルサイトに掲載して行う。

第 10 章 雑 則

（施行細則）

第 54 条 この定款の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て代表理事がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

代表理事	道林 幸次
副代表理事	樋口 常子

副代表理事	木下 文夫
理 事	大崎 文雄
同	桑島 正尚
同	坂口 広
同	上田 泰史
同	山崎 悦子
監 事	藤尾 司

- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 16 条第 1 項の規定にかかわらず、成立の日から令和 9 年 6 月 30 日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び予算は、この定款の規定にかかわらず、設立総会で定めるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、この定款の規定にかかわらず、成立の日から令和 8 年 3 月 31 日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、この定款の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
 - (1) 正会員 個人 団体
 - ① 入会金 2,000 円 5,000 円
 - ② 年会費 3,000 円 5,000 円
 - (2) 賛助会員
 - ① 入会金 0 円 0 円
 - ② 年会費 3,000 円 5,000 円（一口）

役員名簿

特定非営利活動法人兵庫県防災福祉ネットワーク

役 名	ふりがな 氏名	住所又は居所	報酬の有無
代表理事	みちばやし こうじ 道林 幸次		無
副代表理事	ひぐち つねこ 樋口 常子		無
副代表理事	きのした ふみお 木下 文夫		無
理事	おおさき ふみお 大崎 文雄		無
理事	くわじま まさひさ 桑島 正尚		無
理事	さかぐち ひろし 坂口 広		無
理事	うえだ やすし 上田 泰史		無
理事	やまさき えつこ 山崎 悦子		無
監事	ふじお つかさ 藤尾 司		無

設立趣旨書

1 趣 旨

阪神淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災、能登半島地震等の未曾有の震災の経験や教訓は風化させることなく、後世に継承していく必要がある。また、近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震への備えも喫緊の課題である。

こうした背景から、平時より住民、各種団体、事業所が防災、福祉、教育、環境など多様な分野で連携することにより、有事の際に一体となって災害防御の体制を構築することが可能となる。

そのためには、現在個々に活動している自主防災組織、自治会、婦人会などの地域住民団体、及び企業等の事業所団体がネットワークを形成し、組織的な連携を図ることが求められる。

今回、法人として申請するに至ったのは、これまで各種団体が実践してきた活動や事業をさらにネットワーク化し、一体性をもって組織的に運営していく上で、社会的に認められた公的な組織形態が最適であると判断したためである。

また、営利を目的としない活動で、多くの市民の方々に参画してもらうことが不可欠であるという観点から、特定非営利活動法人格の取得が最も適切であると考えた。

法人化することで地域防災力の向上に繋がり、もって安心安全なまちづくりに貢献できるものと確信している。

2 申請に至るまでの経過

令和7年7月8日	任意団体「兵庫県防災福祉ネットワーク」発足
令和7年7月8日	会員間で法人化の意思確認
令和7年10月17日	設立總會開催

令和7年10月17日

特定非営利活動法人兵庫県防災福祉ネットワーク
設立代表者 道林 幸次

令和7年度事業計画書

特定非営利活動法人兵庫県防災福祉ネットワーク

1. 基本方針

住民、各種団体、事業所等に対して、防災・教育活動の運営支援及び活動支援に関する事業を行い、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与する。

2. 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	プロジェクト内容	実施月 実施回数	実施場所	対象者	収益 見込
(1) 自主防災組織等の防災訓練における住民、各種団体、事業所等の連携及び活動支援事業	自主防災組織（防災福祉コミュニティ）の防災訓練支援	2回	兵庫区内	兵庫区民	0
(2) 防災ジュニアチーム等の子どもの健全育成活動における住民、各種団体、事業所等連携及び活動支援事業	防災ジュニアチームの防災教育及び防災訓練の支援	2回	兵庫区内	兵庫区民	0

令和8年度事業計画書

特定非営利活動法人兵庫県防災福祉ネットワーク

1. 基本方針

住民、各種団体、事業所等に対して、防災・福祉・教育・環境活動の運営支援及び活動支援に関する事業を行い、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与する。

2. 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	プロジェクト内容	実施月 実施回数	実施場所	対象者	収益 見込
(1) 自主防災組織等の防災訓練における住民、各種団体、事業所等の連携及び活動支援事業	自主防災組織（防災福祉コミュニティ）の防災訓練支援	通年 17回	兵庫区内	兵庫区民	0
(2) 自主防災組織等の防災マップ等の作成及び見直し等の地域安全活動における住民、各種団体、事業所等の連携及び活動支援事業	自主防災組織（防災福祉コミュニティ）の防災マップの作成及び見直し等の支援	通年 17回	兵庫区内	兵庫区民	0
(3) 地域団体の高齢者の給食会等のまちづくり推進活動における住民、各種団体、事業所等の連携及び活動支援事業	地域団体が主催する高齢者の給食会の活動支援	通年 12回	兵庫区内	兵庫区民	0
(4) 災害弱者の要援護者支援訓練等の福祉増進活動における住民、各種団体、事業所等連携及び活動支援事業	要援護者（災害弱者）支援訓練の活動支援	通年 6回	兵庫区内	兵庫区民	0

(5)防災ジュニアチーム等の子どもの健全育成活動における住民、各種団体、事業所等連携及び活動支援事業	防災ジュニアチームの防災教育及び防災訓練の支援	通年 12回	兵庫区内	兵庫区民	0
(6)兵庫運河の環境保全のための真珠貝プロジェクトにおける住民、各種団体、事業所等連携及び活動支援事業	兵庫運河における真珠貝プロジェクトの活動支援	通年 1回	兵庫区内	兵庫区民	0
(7)その他、当法人の目的を達成するために必要な事業	定款第5条第1号～第7号に規定されていないものの、法人として実施が必要となった事業について、定款第3条及び第4条に規定する範囲内において、単年度又は試験的に限り実施する。	通年	兵庫区内	兵庫区民	0

3. 事業実施体制

通常総会 6月

理事会 年2回

令和7年度活動予算書

成立の日から令和8年 3月31日まで

(単位:円)

事業活動	経常収入	経常支出	経常収支
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	60,000		
賛助会員受取会費			
.....受取会費			
2. 受取寄付金			
受取寄付金	0		
3. 受取助成金等			
受取地方公共団体助成金	0		
受取民間助成金	0		
4. 事業収益			
5. その他収益			
受取利息	0		
雑収益	0		
経常収益計			60,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	10,000		
法定福利費	3,000		
人件費計	13,000		
(2) その他経費			
講師謝金	1,000		
消耗品費	1,000		
印刷費	1,000		
通信費	1,000		
保険料	1,000		
会場費	1,000		
会議費	1,000		
その他経費計	7,000		
事業費計		20,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給与手当	30,000		
法定福利費	3,000		
人件費計	33,000		
(2) その他経費			
消耗品費	1,000		
印刷費	1,000		
通信費	1,000		
旅費交通費	1,000		
光熱水費	1,000		
保険料	1,000		
会議費	1,000		
租税公課	0		
その他経費計	7,000		
管理費計		40,000	
経常費用計			60,000
当期正味財産増減額			0
設立時正味財産額			0
次期繰越正味財産額			0

令和8年度活動予算書

令和8年4月1日から令和9年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	36,000		
賛助会員受取会費	370,000		
.....受取会費		406,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金		0	
3. 受取助成金等			
受取地方公共団体助成金		0	
受取民間助成金		0	
4. 事業収益	0	0	
5. その他収益			
受取利息			
雑収益		0	
経常収益計			406,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給与手当	10,000		
法定福利費	5,000		
人件費計	15,000		
(2)その他経費			
講師謝金	5,000		
消耗品費	5,000		
印刷費	5,000		
通信費	5,000		
保険料	5,000		
会場費	5,000		
会議費	5,000		
その他経費計	35,000		
事業費計		50,000	
2. 管理費			
(1)人件費			
給与手当	240,000		
法定福利費	10,000		
人件費計	250,000		
(2)その他経費			
消耗品費	5,000		
印刷費	6,000		
通信費	5,000		
旅費交通費	5,000		
光熱水費	5,000		
保険料	5,000		
会議費	5,000		
租税公課	70,000		
その他経費計	106,000		
管理費計		356,000	
経常費用計			406,000
当期正味財産増減額			0
前期繰越正味財産額			0
次期繰越正味財産額			0